

## 西表石垣国立公園（石垣地域）管理計画 （1～3の骨子案）

### 1. 西表石垣国立公園（石垣地域）の概況

#### （1）管理計画区の範囲

西表石垣国立公園の石垣市域及び周辺海域

#### （2）管理計画区の特徴

##### □ サンゴ礁の海の美しさ、特に緑と青のコントラストの美しさ

- ・ 玉取崎、平久保、川平湾などから見るサンゴ礁の海
- ・ 特に平久保半島東側斜面の放牧地では、シバ草原の中にソテツが点在し、背後の山地部と前面に広がるリーフと一体となった独特の景観

##### □ 森、干潟、海の豊かな自然環境

- ・ 県下最高峰の於茂登岳や野底岳周辺では亜熱帯照葉樹林が広がり、希少動植物も多く生息・生育（ヤエヤマオオコオモリ、カンムリワシ、アサヒナキマダラセセリ等）
- ・ 名蔵アンパル、吹通川では、マングローブ林が発達
- ・ 日本最多の 360 種以上の造礁サンゴ類が確認され、世界屈指の多様性を誇る海

##### □ 周遊観光、リゾート型滞在、エコツーリズムなど多様な利用が展開

- ・ 航空便の便数が多く、比較的アクセスのよい離島
- ・ 観光目的での来島者は約 79 万人（平成 19 年）で増加傾向、新空港建設により更なる増加も見込まれる
- ・ レンタカーを利用した海岸沿いの景勝地やビーチを巡る自然探勝型利用が主
- ・ リゾート滞在型利用も人気が高い
- ・ カヌーやスノーケリングなどによるエコツーリズムも行われている

##### □ 信仰・民話・習慣などの地域との結びつき

- ・ 於茂登岳は古くから霊山とされ、地元振興の中心的存在
- ・ 野底岳には強制労働のため恋仲から離れ離れにされた女性「マーペー」の悲哀の民話が言い伝えられ、地元の民話の代表的なものとされる
- ・ 名蔵アンパルには干潟の生き物と生活習慣を結びつけた民謡が伝わる

## 2. 基本方針

### (1) 目指すべき姿

最もアクセスよく亜熱帯の自然が感じられる国立公園の地域として、また、西表石垣国立公園の玄関口として、

- 手軽にサンゴ礁の海の美しさを楽しむことのできることは、現在の利用者にとっても最大の魅力であり、将来にわたり楽しめる公園。
- 豊かな自然環境が保全されており、より自然と密接にふれあう利用ができる公園。

### (2) 管理の基本方針

#### □ 美しいサンゴ礁の海と山や草原の緑が一体となった景観を保全

- ・ 陸と海を一体としてとらえた景観保全
- ・ 特に主要な展望地からの眺めを保全するよう努める
- ・ 人が手を加えることによって維持される牧場景観の保全

#### □ 地域特有の自然環境の保全

- ・ 森林生態系、・希少種の生息・生育環境の保全、回復を図る
- ・ 外来生物対策（駆除、拡散防止）を行う
- ・ サンゴ礁生態系の保全・再生を図る（石西礁湖自然再生事業の「関連する区域」になっている）

#### □ 自然資源の適正な利用の推進

- ・ 自然と密接にふれあう利用の推進（そうした場の維持や創出を図る）
- ・ 利用圧に対して脆弱な環境であるため、自然が損なわれないような利用を推進
- ・ 地元住民の信仰の拠り所であることから、精神的に重要な場所については十分に配慮する
- ・ 周遊型利用の拠点については現状の施設の維持管理に努め、必要な施設があれば整備を検討する
- ・ 適切な情報発信に努める

#### □ 地域の長期的自主的な管理体制の確立

- ・ 地域で国立公園の目指すべき姿を共有し、連携していくことが不可欠
- ・ 公民館、学校との連携を図り、地域住民が地元の自然の大切さを実感し、長期的自主的に保全に参加する体制作りに努める

### 3. 保全及び利用に関する事項

保全及び利用に関する事項は、国立公園に指定されている地域を景観の質等により4つのタイプに分けて記載し、全域に共通の事項についても別途記載する。

#### (1) ～ (4) タイプごとの保全及び利用に関する事項 (今回は表にまとめて記載)

(別表)

#### (5) 共通項目

ア. 野生生物の保護管理について

- ・カンムリワシ
- ・外来生物対策 (シロアゴガエル、オオヒキガエル)

イ. 地域との連携について

- ・景観法との連携
- ・地域住民との連携